

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年5月13日
【四半期会計期間】	第17期第2四半期（自 2021年1月1日 至 2021年3月31日）
【会社名】	メドピア株式会社
【英訳名】	MedPeer, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石見 陽
【本店の所在の場所】	東京都中央区銀座六丁目18番2号
【電話番号】	03-4405-4905
【事務連絡者氏名】	取締役 経営企画部長 平林 利夫
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区銀座六丁目18番2号
【電話番号】	03-4405-4905
【事務連絡者氏名】	取締役 経営企画部長 平林 利夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第2四半期連結 累計期間	第17期 第2四半期連結 累計期間	第16期
会計期間	自 2019年10月1日 至 2020年3月31日	自 2020年10月1日 至 2021年3月31日	自 2019年10月1日 至 2020年9月30日
売上高 (千円)	2,311,865	3,804,887	5,311,071
経常利益 (千円)	508,520	1,131,927	1,130,647
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	341,446	770,365	725,970
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	367,573	785,522	796,746
純資産額 (千円)	4,953,451	6,422,987	5,582,068
総資産額 (千円)	6,155,265	7,814,661	7,127,400
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	16.81	35.81	35.03
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	16.01	33.56	32.67
自己資本比率 (%)	77.3	78.8	75.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	420,791	660,992	930,297
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	363,192	238,935	469,225
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,107,996	3,282	1,100,511
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	4,294,708	5,126,035	4,700,696

回次	第16期 第2四半期連結 会計期間	第17期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自 2020年1月1日 至 2020年3月31日	自 2021年1月1日 至 2021年3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	9.18	15.47

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社(メドピア株式会社)、子会社5社及び関連会社2社により構成されており、ドクタープラットフォーム事業及びヘルスケアソリューション事業を主たる業務としております。

当第2四半期連結累計期間における、各セグメントに係る主な事業内容の変更と主要な関係会社の異動は、次のとおりであります。

<ドクタープラットフォーム事業>

2020年11月にメドクロス株式会社を設立し、連結子会社としております。

<ヘルスケアソリューション事業>

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

新型コロナウイルスの感染拡大による経済環境の悪化等が事業に与える影響について、今後も注視する必要があるものの、現時点では当社グループの経営成績及び財政状態に重大な影響を与えるものとは認識しておりません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当社グループが属する医療・健康産業においては、団塊の世代が全員75歳以上に達し医療・介護費の急増が懸念される、いわゆる2025年問題、さらに、団塊ジュニア世代が全員65歳以上に達することで高齢者数がピークを迎え、医療・介護費の負担の増加が拡大する2040年問題を抱えております。かかる展望を踏まえ、日本政府は持続可能な経済財政の基盤固めに向けた構造改革を推進しており、健康寿命の延伸を喫緊の課題として「予防・健康管理」と「自立支援」に軸足を置きつつ、テクノロジーの活用により医療・介護サービスの生産性向上を実現する、新しい医療・介護システムを構築することとしております。

また、製薬企業は医療従事者に向けた営業活動の生産性向上を企図し、情報提供・収集活動の一環としてウェブサイトやアプリ、ソーシャルネットワークなど、デジタルツールを活用した取り組みをより一層強化しております。これにより、製薬企業にとってのeマーケティングは、かつての医薬情報担当者(MR)の「補完」としての位置づけから「主軸」としての活用を期待されるポジションへと変化しております。さらに、現在の新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受け、これらのオンライン化の流れはさらに加速するものと見られます。

このような環境の中、当社グループは、ミッションである「Supporting Doctors, Helping Patients.(医師を支援すること。そして患者を救うこと。)」を実現すべく、医師専用コミュニティサイト「MedPeer」を基盤として医師や医療現場を支援するサービスを展開するドクタープラットフォーム事業と、健康増進・予防などのコンシューマー向けヘルスケア支援を展開するヘルスケアソリューション事業に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高3,804,887千円(前年同四半期比64.6%増)、営業利益1,112,117千円(同129.6%増)、経常利益1,131,927千円(同122.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益770,365千円(同125.6%増)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

ドクタープラットフォーム事業

ドクタープラットフォーム事業では、医師や医療現場を支援するため、「MedPeer」の12.5万人の医師会員を基盤とした集合知プラットフォームと、医療機関と患者様を繋げるプライマリケアプラットフォームを展開しております。

当第2四半期連結累計期間において、集合知プラットフォームでは、国内医師の約4割が利用する「MedPeer」上のコンテンツを充実させることにより、医師会員の活性度を向上する施策を展開してまいりました。また、新型コロナウイルス感染症を契機とした製薬企業のマーケティング活動のオンライン化に対応し、「薬剤評価掲示板」や「Web講演会」などの既存サービスの拡販を推進するとともに、製薬業界におけるデジタルトランスフォーメーションを牽引すべく、医師とMRのダイレクトコミュニケーションツール「MedPeer Talk」の本格提供や、株式会社PKSHA Technologyと共同で製薬企業に特化したアルゴリズムソリューションを展開する合弁会社(メドクロス株式会社)の設立などの施策を行ってまいりました。

プライマリケアプラットフォームにおいては、薬局向けアプリサービス「kakari」、クリニック向けアプリサービス「kakari for Clinic」の機能拡充と拡販に注力してまいりました。

これらの結果、売上高は2,993,440千円(同73.8%増)、セグメント利益は1,225,050千円(同109.5%増)となりました。

ヘルスケアソリューション事業

ヘルスケアソリューション事業では、健康増進・予防などのコンシューマー向けヘルスケア支援を展開しております。

当第2四半期連結累計期間において、子会社の株式会社Mediplatが運営する産業保健支援サービス「first call」、及び、株式会社フィッツプラスが展開する特定保健指導事業の収益基盤強化に注力してまいりました。また、株式会社Mediplatと株式会社スギ薬局の共同事業である「スギサボ」をはじめとするライフログプラットフォームの拡大を図るなど、事業拡大を推進しております。

これらの結果、売上高は814,955千円（同38.2%増）、セグメント利益は122,269千円（同0.6%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて687,260千円増加し、7,814,661千円となりました。これは現金及び預金425,939千円の増加、ソフトウェア54,036千円の増加、及び敷金136,330千円の増加を主要因とするものであります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて153,657千円減少し、1,391,674千円となりました。これは賞与引当金99,074千円の減少、及び未払消費税等55,141千円の減少を主要因とするものであります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて840,918千円増加し、6,422,987千円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う利益剰余金770,365千円の増加を主要因とするものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ425,339千円増加し、5,126,035千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果獲得した資金は、660,992千円となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益を1,131,929千円計上した一方、法人税等の支払が298,523千円あったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動により使用した資金は、238,935千円となりました。この主な要因は、敷金の差入による支出136,330千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動により獲得した資金は、3,282千円となりました。この主な要因は、株式の発行による収入35,774千円、及び長期借入金の返済による支出36,550千円によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	67,000,000
計	67,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2021年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2021年5月13日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	21,551,590	21,551,590	東京証券取引所 (市場第一部)	1単元の株式数は100株であります。
計	21,551,590	21,551,590	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2021年5月1日から本四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2021年2月1日 (注)1.	1,890	21,528,390	7,361	2,019,991	7,361	2,042,415
2021年1月1日～ 2021年3月31日 (注)2.	23,200	21,551,590	2,345	2,022,336	2,345	2,044,761

(注)1. 譲渡制限付株式報酬の付与を目的とした新株式の有償発行によるものです。

発行価格 1株につき7,790円
 割当先 社外取締役を除く取締役4名及び執行役員4名
 資本組入額 1株につき3,895円
 払込金総額 14,723千円(金銭報酬債権の現物出資)

2. 新株予約権の行使による増加であります。

(5)【大株主の状況】

2021年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
石見 陽	東京都港区	5,191,820	24.09
BOZO株式会社	千葉県佐倉市鎗木町1丁目3-7	1,250,000	5.80
堺 昌彦	北海道小樽市	900,000	4.17
CREDIT SUISSE (LUXEMBOURG) S.A. / CUSTOMER ASSETS, FUNDS UCITS (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	56, GRAND RUE L-1660 LUXEMBOURG (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	643,100	2.98
山中 篤史	埼玉県上尾市	632,500	2.93
THE BANK OF NEW YORK, NON-TREATY JASDEC ACCOUNT (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	225 LIBERTY STREET, NEW YORK, NEW YORK 10286, USA (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	600,000	2.78
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	586,800	2.72
JP MORGAN CHASE BANK 380055 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	270 PARK AVENUE, NEW YORK, NY 10017, UNITED STATES OF AMERICA (東京都港区港南2丁目15番1号)	565,700	2.62
スギホールディングス株式会社	愛知県安城市三河安城町1丁目8-4	551,200	2.55
BBH FOR UMB BANK, NATIONAL ASSOCIATION - OBERWEIS INT OPP INSTITUTION FD (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	3333 WARRENVILLE RD STE 500 LISLE ILLINOIS 60532 U.S.A (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	416,700	1.93
計	-	11,337,820	52.60

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式は、すべて同社が信託業務(証券投資信託等)の信託を受けている株式です。

(6)【議決権の状況】
 【発行済株式】

2021年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,527,900	215,279	1単元の株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 23,090	-	-
発行済株式総数	21,551,590	-	-
総株主の議決権	-	215,279	-

(注)「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式78株が含まれています。

【自己株式等】

2021年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(自己保有株式) メドピア株式会社	東京都中央区銀座六 丁目18番2号	600	-	600	0.00
計	-	600	-	600	0.00

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年1月1日から2021年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年10月1日から2021年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,702,996	5,128,935
受取手形及び売掛金	1,290,266	1,322,913
仕掛品	34,451	57,228
その他	75,110	119,883
流動資産合計	6,102,825	6,628,961
固定資産		
有形固定資産	104,067	99,790
無形固定資産		
のれん	154,339	138,105
顧客関連資産	115,646	109,395
その他	179,400	236,275
無形固定資産合計	449,386	483,776
投資その他の資産	471,121	602,133
固定資産合計	1,024,575	1,185,699
資産合計	7,127,400	7,814,661
負債の部		
流動負債		
買掛金	50,616	74,337
1年内返済予定の長期借入金	68,620	58,097
賞与引当金	147,293	48,218
役員賞与引当金	3,965	2,751
ポイント引当金	95,165	104,564
未払金	266,785	277,990
未払法人税等	335,730	352,136
その他	338,108	266,748
流動負債合計	1,306,285	1,184,844
固定負債		
長期借入金	134,279	108,252
資産除去債務	34,233	34,237
繰延税金負債	64,184	58,706
その他	6,350	5,633
固定負債合計	239,046	206,829
負債合計	1,545,332	1,391,674
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,996,939	2,022,336
資本剰余金	2,213,986	2,239,383
利益剰余金	1,137,934	1,908,299
自己株式	448	448
株主資本合計	5,348,411	6,169,571
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,960	8,324
その他の包括利益累計額合計	5,960	8,324
新株予約権	10,054	9,755
非支配株主持分	229,564	251,985
純資産合計	5,582,068	6,422,987
負債純資産合計	7,127,400	7,814,661

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
売上高	2,311,865	3,804,887
売上原価	786,092	1,235,313
売上総利益	1,525,773	2,569,573
販売費及び一般管理費	1,041,399	1,457,455
営業利益	484,373	1,112,117
営業外収益		
受取利息	72	124
持分法による投資利益	24,105	16,600
補助金収入	-	3,705
その他	825	1,042
営業外収益合計	25,003	21,473
営業外費用		
支払利息	833	1,401
為替差損	0	-
その他	22	262
営業外費用合計	855	1,663
経常利益	508,520	1,131,927
特別利益		
新株予約権戻入益	12	2
特別利益合計	12	2
税金等調整前四半期純利益	508,532	1,131,929
法人税、住民税及び事業税	95,616	322,873
法人税等調整額	40,421	21,169
法人税等合計	136,038	344,042
四半期純利益	372,494	787,886
非支配株主に帰属する四半期純利益	31,047	17,521
親会社株主に帰属する四半期純利益	341,446	770,365

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
四半期純利益	372,494	787,886
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,920	2,363
その他の包括利益合計	4,920	2,363
四半期包括利益	367,573	785,522
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	336,525	768,001
非支配株主に係る四半期包括利益	31,047	17,521

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	508,532	1,131,929
減価償却費	38,434	59,256
のれん償却額	28,180	18,798
賞与引当金の増減額(は減少)	16,647	99,074
役員賞与引当金の増減額(は減少)	-	1,213
ポイント引当金の増減額(は減少)	367	9,399
受取利息及び受取配当金	72	689
支払利息	833	1,401
持分法による投資損益(は益)	24,105	16,600
売上債権の増減額(は増加)	147,117	32,646
たな卸資産の増減額(は増加)	1,461	22,620
仕入債務の増減額(は減少)	44,043	23,720
未払金の増減額(は減少)	68,098	8,177
未払消費税等の増減額(は減少)	37,857	54,825
その他	24,474	64,925
小計	475,520	960,085
利息及び配当金の受取額	72	689
利息の支払額	786	1,259
法人税等の支払額	54,014	298,523
営業活動によるキャッシュ・フロー	420,791	660,992
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	34,173	23,038
無形固定資産の取得による支出	36,601	79,537
資産除去債務の履行による支出	1,240	-
敷金の差入による支出	50	136,330
敷金の回収による収入	3,108	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による 支出	294,360	-
その他	125	29
投資活動によるキャッシュ・フロー	363,192	238,935
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	56,349	36,550
株式の発行による収入	1,164,345	35,774
非支配株主からの払込みによる収入	-	4,900
その他	-	842
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,107,996	3,282
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,165,596	425,339
現金及び現金同等物の期首残高	3,129,112	4,700,696
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,294,708	5,126,035

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、メドクロス株式会社を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
役員報酬	49,974千円	103,050千円
給料手当	268,817千円	359,176千円
賞与引当金繰入額	22,115千円	42,056千円
広告宣伝費	27,236千円	51,517千円
ポイント費用	123,576千円	222,213千円
ポイント引当金繰入額	367千円	9,399千円
支払手数料	186,846千円	244,216千円
のれん償却額	28,180千円	18,798千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
現金及び預金	4,296,408千円	5,128,935千円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,700千円	2,900千円
現金及び現金同等物	4,294,708千円	5,126,035千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当社は、当第2四半期連結累計期間において、UBS AG London Branch等から新株予約権の行使による払い込みを受けました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本金及び資本剰余金がそれぞれ585,185千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が1,895,528千円、資本剰余金が2,112,574千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	ドクタープラ ットフォーム事業	ヘルスケアソ リューション事 業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,722,306	589,558	2,311,865	-	2,311,865
セグメント間の内部売上高 又は振替高	70	186	256	256	-
計	1,722,376	589,744	2,312,121	256	2,311,865
セグメント利益	584,870	123,067	707,938	223,565	484,373

(注) 1 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去4,530千円、各報告セグメントに配分していない全社費用228,095千円が含まれております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	ドクタープラ ットフォーム事業	ヘルスケアソ リューション事 業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,990,117	814,769	3,804,887	-	3,804,887
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,323	186	3,509	3,509	-
計	2,993,440	814,955	3,808,396	3,509	3,804,887
セグメント利益	1,225,050	122,269	1,347,320	235,202	1,112,117

(注) 1 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去9,638千円、各報告セグメントに配分していない全社費用244,841千円が含まれております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	16.81円	35.81円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	341,446	770,365
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	341,446	770,365
普通株式の期中平均株式数(株)	20,314,228	21,512,682
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	16.01円	33.56円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(株)	1,016,099	1,442,757
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	第12回新株予約権 (潜在株式数212,000株)	第12回新株予約権 (潜在株式数192,000株)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年5月13日

メドピア株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 裕之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 萬 政広

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているメドピア株式会社の2020年10月1日から2021年9月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年1月1日から2021年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年10月1日から2021年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、メドピア株式会社及び連結子会社の2021年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。